

論文
紹介



思春期・若年成人がん患者

Sender L, Zabokrtsky KB :

Adolescent and young adult patients with cancer ; a milieu of unique features.

Nature Reviews Clinical Oncology 12 : 465-480, 2015



山本 一仁

愛知県がんセンター中央病院臨床試験部部長

はじめに

がん診療に携わっている医療従事者は、以前より、思春期・若年成人(adolescent and young adult ; AYA)世代がん患者は、それ以外の患者とは異なる配慮や課題があることを認識していた。現在のAYA世代腫瘍学の進展は、Dr. Adrian Whitesonと彼の妻 Myrna Whiteson の努力により1990年に英国で設立された Teenage Cancer Trust (TCT) が先駆けとなっている。

一般的には、AYA 世代の定義は15~39歳となっているが、研究によりさまざまである。米国国立がん研究所(NCI)の2006年 Surveillance, Epidemiology, and End Results (SEER) 報告では15~29歳のデータを報告しているが、同年のLIVESTRONG Young Adult AllianceとNCI Adolescent and Young Adult Oncology Progress Review Groupの共同報告では39歳までを扱っている。英国では15~24歳を teenage and young adult (TYA) と呼んでいる。

より若い小児またはより年齢の高い成人と比較すると、AYA 世代がん患者はがんのタイプに特徴があり、しばしば異なった治療成績を示す。この総説では、AYA 世代のがんの罹患率と死亡率の概略を述べた後、分子標的治療を考察するうえで良い例となるAYA 世代の急性リンパ芽球性白血病(acute lymphoblastic leukemia ; ALL)と悪性黒色腫を取り上げ、最後にAYA 世代患者における課題を取り上げる。なお、この総説では、小児期にがん罹患したAYA 世代のサバイバーではなく、AYA 世代に診断された患者を対象としている。

がんの罹患率と死亡率

1. AYA 世代の罹患率

AYA 世代の年齢は幅広いため、小児または成人のプラクティスに従って治療を受けている。米国では、毎年7万人のAYA 世代がん患者(15~39歳)が新規に発症しており、これは全がん患者の約4%に相当する。また、女性の罹患が多い。AYA 世代に多いがん腫の罹患率を死亡率とともに表1に示した。

2. AYA 世代の死亡率

過去30年、ほとんどのAYA 世代がん患者の5年生存率は向上しており、すべてのがん腫において80%以上の5年生存率を示している。したがって、10万人あたりのがんによる死亡率は、1991年には215.1人であったものが、2010年には171.8人となっている。一方、米国においては、がんは依然15~24歳の医学的死因の第1位であり、35~44歳においては、女性では第1位、男性では第2位の医学的死因を占める。

表1 AYA 世代の代表的がんの罹患率と死亡率*

年齢	罹患率	死亡率
15~19歳		
ホジキンリンパ腫	3.5	0.2
脳腫瘍およびその他の中枢神経系腫瘍	2.0	0.6
甲状腺腫瘍	1.8	0
非ホジキンリンパ腫	1.6	0.3
精巣腫瘍	1.6	0.1
20~24歳		
ホジキンリンパ腫	5.0	0.4
精巣腫瘍	4.5	0.3
甲状腺腫瘍	4.2	0
悪性黒色腫	4.2	0.2
脳腫瘍およびその他の中枢神経系腫瘍	2.3	0.6
25~29歳		
悪性黒色腫	7.4	0.5
甲状腺腫瘍	6.8	0
精巣腫瘍	6.3	0.3
ホジキンリンパ腫	4.8	0.6
乳腺腫瘍	4.1	0.5
30~34歳		
乳腺腫瘍	13.3	2.1
悪性黒色腫	10.5	0.9
甲状腺腫瘍	8.7	0
精巣腫瘍	6.5	0.3
子宮頸がん	5.8	0.9
35~39歳		
乳腺腫瘍	31.6	5.1
悪性黒色腫	14.0	1.3
甲状腺腫瘍	10.6	0.1
非ホジキンリンパ腫	7.9	1.5
子宮頸がん	7.2	1.5

* : 1975~2011年の米国における10万人あたりの頻度 (Table 1引用)